

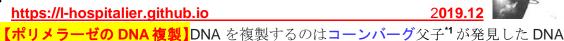
#218



## ヘリカーゼ、プライマーゼ、岡崎フラグメント

ー不連続 DNA 合成とプライマーの発見ー

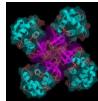
https://l-hospitalier.github.io



ポリメラーゼ  $I \times II \times III$ 。 この酵素は既にある核酸断片の0 **延長**しかできないし、そ の延長方向は $25' \rightarrow 3'$ 方向の4。 右図下側のように鋳型 **DNA** の **1** 本鎖に沿って **DNA** の複製がフォーク(分岐点) へ向かって進めば**ヘリカーゼ**が 2 本鎖を分離しながら(分 岐点は右に進む)合成が進み図下側のリーディング鎖(先 導鎖)では娘 DNA は連続的に複製。 しかし Watson-Crick モデルの2本鎖DNAは逆並行の配置で、図上側のラギング

複製フォークの進行 DNA合成の方向 リーディング鎖

鎖(遅れた鎖)では分岐点から遠ざかる方向に複製が進み、鋳型 DNA が短いときはす ぐ DNA 端に達する。<mark>【岡崎フラグメントの発見】</mark>名大の<mark>岡崎令児、恒子\*2</mark>夫妻は DNA ポリメラーゼの特性から複製は一部非連続に起こると考えた。複製中の DNA を 3H(ト リチウム) チミジン液中に数秒間浸した後で放射活性を測定すると 1000~2000 塩基の 短い DNA 断片(<mark>岡崎フラグメント</mark>)に放射活性を認め、数分以上浸した場合には再合 成された長い DNA 分子中に放射活性を認めた。この結果から彼らはラギング鎖では多 数の短い1本鎖 DNA の断片が不連続的に合成され、DNA リガーゼ (ligase) により1 本の DNA 鎖に再合成されると考えた。 しかし延長することしかできない DNA ポリメ ラーゼがどうして岡崎フラグメントの合成を開始できるのか?<mark>【プライマーの発見】</mark>岡 崎令児の死後、DNA 修復の際にも短鎖が発生することがわかり、短鎖 RNA が岡崎フラ グメントのプライマーである証拠が要求された。 岡崎恒子らは困難な研究を遂行、検 出された短鎖断片全体の約半数にあたる 10,11,12 塩基長の 3種の RNA プライマーが岡 崎フラグメント由来であることを証明した。 DNA 合成開始には 3'-OH 末端が必要で DNA、RNA、オリゴヌクレオチド、蛋白などが 3'-OH を提供できプライマー (primer、 下途り)となりうる。 これで岡崎フラグメント合成時には必ず**短い RNA プライマー** が作成されることが確定\*3。 **①DNA ポリメラーゼⅢ**が RNA プライマーを延長 **②DNA** ポリメラーゼ I が RNA プライマーの除去と隙間の埋め 3DNA リガーゼが長い DNA 鎖 に再合成。この3段階全てで誤転写修正を行うという図式が確定した。【DNA ヘリカ



<mark>-ゼ】DNA</mark> を複製するには局所的にでも2本鎖をいったん分離する必要がある。 **ヘリ** カーゼ (左図) は ATP 分解エネルギーで 2 本鎖を分離する必須酵素。 細菌ではヘリカ -ゼが2本鎖を開きながら前進するとプライマーゼがヘリカーゼと周期的に結合して プライモソームを構成、これが短い RNA プライマーを周期的に合成する。<mark>【ヘリカー</mark> <mark>ゼ/プライマーゼ阻害剤】</mark>アメナビル(ASP2151)がこの酵素の阻害薬なら極めて危険 (多分無知な医者をたぶらかすキャッチコピー)。 アメナビルは 10 年前米国の治験 第1相で**非回復性血小板減少**との因果関係が否定できず**重篤な副作用**で開発中止(#103 参照)。 会社を変え 2017/9 日本のみ発売。 2017 年厚労省審議会議事録\*4 でアメナリ **−フ**の血小板減少と QT 延長関連の記述は**伏せ字**で詳細隠蔽。

<sup>&</sup>lt;sup>™</sup> Arthur Kornberg は 1958 年ポリメラーゼ I を発見、1959 年 S Ochoa とノーベル賞(2006 年の RG Kornberg は長 男)。UCSF の Thomas Kornberg は次男で 1971 年 DNA ポリメラーゼ Ⅱ ,Ⅲを発見(ジュリアード出のチェリスト!)。 \*<sup>2</sup>写真は名大が世界に誇る<mark>岡崎夫妻</mark>。 岡崎令児は広島で被爆、1975 年白血病で死去 (44 歳) 。 \*<sup>3</sup> Okazaki T et al., Cold Spring Harbor Quant Biol 43:203-219, 1979. \*4 2017/5/30 厚労省薬事·食品衛生審議会 医薬品第 2 部会;第 1 議題。